

図書室だより 1月号

渋谷区立広尾中学校
学校長 川上弘文
学校図書館専門員
岡崎有希子
北島佑奈

今年もいろいろな「夢」をみよう 謹賀新年

新しい年の幕開けです。図書室では、今年も楽しくて、皆さんのためになるような本を用意してお待ちしています。よろしくお願いします。

皆さん、今年の初夢はどんな夢を見ましたか？「夢」という言葉には、睡眠中に見る夢、実現させたい目標、空想や楽しい考えなど、いろいろな意味があります。「一年の計は元旦にあり」という言葉があるように、1月は、1年の計画を立てるのにピッタリな時期です。本を読んで、いろいろな夢に触れてみましょう。今月は「夢」に関する本を紹介します。

「新書」ってなに？ 新しい本ではありません！



「新書」とは「本のサイズ」を指す言葉です。比較的気軽に読める内容の読み物を集めた叢書(シリーズ)です。ちなみに新しく出版される本は「新刊」と呼びます。

新書は、様々な専門分野の入門書として刊行されることが多く、ジュニア版は特に中高生向きに作られています。将来勉強したい分野を見つけるきっかけになるかもしれません。新しい年の始まりに、ぜひ「新書」を手にとってみてください。

参考:『日本国語大辞典』(小学館)

『夢十夜 文鳥』 (分類:913)

夏目漱石/著 宮越義勝/画 ぎょうせい/出版



「こんな夢を見た。」で始まる夏目漱石の幻想的な短編集。死んでしまった美しい女と百年後に会う約束をする第一夜、盲目の子供を背中におぶって彷徨う父親の恐怖を描く第三夜…。不思議で奇妙な夢を体験できます。

『夢をかなえるゾウ』

(分類:913)水野敬也/著 飛鳥新社/出版

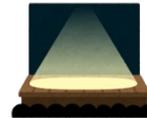


「自分、そんなことやから、『夢』を現実にだけへんやで」ゾウの姿をした神様がネーシャの課題に答え、「僕」は変わることができるのか。

楽しく読める自己啓発書として話題になった本ですが、「夢をもつ」とはそもそもどういうことなのか、考えるきっかけをくれます。

『君は君の人生の主役になれ』

(分類:159)鳥羽和久/著 筑摩書房/出版



学校や社会、家庭などで直面する理不尽な事柄を何もなかったことにして、物わかりのいい大人になるのはつまらない。勉強、恋愛、善悪、お金、将来の夢…。大人たちの言葉に違和感を抱えながら、それでも自分独特の道を探るためのヒントとなる本。

『「空気」を読んでも従わない』

(分類:159)鴻上尚史/著 岩波書店/出版



どうしてこんなに人の頼みを断るのが苦しいのか。どうしてこんなに周りの目が気になるのか。どうしてこんなにラインやメールが気になるのか…。「生き苦しさ」のヒミツと「生きやすく」なる方法を伝える一冊。

イベント「としよっおみくじ」

1月8日から31日まで、図書室で本を借りた人はおみくじが引けます。あなたを開運に導いてくれるかもしれない、おすすめの1冊もわかります！ぜひ、年の初めの運試しに来てください。